

令和6年度  
経営発達支援事業 評価委員会報告書

実施期間: 令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

飯 綱 町 商 工 会

## はじめに

昨年度から始まった第二期経営発達支援事業計画も2年目を迎え、第一期計画の反省を踏まえ幾つかの事業の廃止や新事業を計画し実施して参りました。第二期は特にDX化支援に関連する項目が有り時代を反映した支援策を用意した。但し、生活様式の変化や通信技術等（特にAI）の進化が著しい現代に事業完了後、社会状況がどの様に変化するか不安ではあるが、評価委員会を通じて社会環境に則した計画へ柔軟に行ってまいりました。

なお、本計画の内容及び各種事業報告は下記より閲覧可能となっている。

計画書	事業計画書	報告用掲示板
参照サイト	中小企業庁 HP より	本会 HP より
左記の QR コード により閲覧出来ま す。(PFD 形式)		

## 報告 1. 地域の経済動向調査に関すること

### (1) 地域経済分析システム「RESAS、V-RESAS」の活用（新設）

上記ウェブシステムを利用して飯綱町の産業構造や商圈、人口流動などの変動を調査し報告書を作成した。また、昨年指摘された新たに町の移住者向け生活情報を広報することにより地域経済の情報を補完した。作成後は、飯綱町商工会全会員へ配布、本会 HP への掲載、相談時に窓口配布を行った。

#### ① 実施日

作成日 9/2 会員発送 10/22 本会 HP 公開 9/2 窓口配布 9/2～

#### ② 実績

報告書の内容 （下記の QR コード参照「開く」をクリック）



項目/年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度
予定回数	1 回	1 回	1 回	1 回	1 回
実施回数	1 回	1 回			



←飯綱町公式ホームページによる移住者向け生活情報の提供サイト

### ③ 効果

前年同様にカラー印刷で作成し見易さを重視した。創業の相談及び店舗移転の相談時に活用し相談者より好評を得た。当初計画のアフターコロナで活用する予定であった「V-RESAS」は情報提供が終了しており、代わりに業種別生産性の項目の充実を図った。また、本計画の第二項目の目標である「移住、定着に向けた事業者支援」として店舗兼住宅の開業相談等に対し町の空き家物件及び空き家補助金、住宅リフォーム補助金など相談者が利用できる施策を印刷配布や URL の紹介を行った。

### ④ 評価・意見

- ・回数は計画通りに実施されています。
- ・報告書の内容は、とても分かりやすいと受け取りました。
- ・提供資料として飯綱町が策定した「第2次飯綱町総合計画後期基本計画」も大変、参考になるため、活用を検討ください。

## (2) 地域の景気動向調査（継続）

今年度も年4回、四半期毎に町内小規模事業者に対して景況調査を実施した。また他の北信地区・全県・国の景況を経済誌から情報収集し、当地区を含めて報告書を作成した。




作成後は、飯綱町商工会全会員へ配布、本会 HP への掲載、町の担当課へ手渡し、支援時に窓口配布を行った。

### ① 実施状況

項目/年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度
予定回数	4 回	4 回	4 回	4 回	4 回
実施回数	4 回	4 回			

## ② 実績

報告書の内容 （下記の QR コード参照）

項目/四半期	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
作成日	5/14	8/4	11/10	3/7
公開日	5/15	8/5	11/12	3/10
回答企業数	22社	22社	22社	21社
報告書 (左記 QR コード)				

## ② 効果

実施にあたり調査先の事業者とのコミュニケーションの導入剤となっている。調査内容の活用について役場担当課への情報提供により町内の最新の景況を知ってもらい施策に寄与していると考えます。また、創業予定者や新規事業展開を考えている相談者に対し町内の様子を伝えることにも活用が出来ます。

## ④ 評価・意見

- ・回数は計画通りに実施されています。
- ・報告書の内容は、とても分かりやすいと受け取りました。

## 報告 2. 需要動向調査に関すること

### (1) 試食品開発支援事業（新設）

昨年に引き続き飲食業を営む小規模事業者に対し販路開拓支援の一環として新商品（料理）の開発を支援策として新商品の需要動向調査の機会を提供し、調査結果を事業者へフィードバックし売上向上のための更なる商品づくりの支援を行った。

本事業を希望する事業者を募り、飯綱町商工会に申請のあった事業者について試食品が新商品であることを確認し、調査用アンケート用紙を事業者と共に作成。作成したアンケートを50枚印刷し事業者へ送付した。事業者は、アンケートが到着次第、顧客に新製品を無料で提供しアンケートに回答いただいた（同一人


物によるアンケート複数回答は無効)。アンケートは50名に達するまたは事業期間が終了するまで実施した。アンケートは本会へ提出いただき、集計、分析を経営指導員が簡易なレポートにまとめ事業者に提供した。結果から新商品の特性毎に県連上席の専門家を紹介し商品の改善及び販路拡大実現へ誘導した。

① 実施日

令和6年7月19日～令和6年8月31日

② 実績

項目/年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
飲食店利用客の需要動向調査の実施事業者予定	5者	5者	6者	6者	6者
実施事業者	3者	4者			

店舗名	A者	B者	C者	D者
新商品名	ブルーベリーシェイク	せいろごはん	ガバオライス	りんごジュース
画像				
回答数	50/50	31/50	40/50	50/50

③ 効果

昨年から1者増え4者の支援となった。回答数が定数に達しなかった2者は更なる展開のため専門家派遣の提案も行ったが思いのほかアンケート結果が良いため事業者から必要無いと判断されてしまった。今後の課題として連続的な支援の実施が挙げられる。

④ 評価・意見

- ・数値的には未達です。
- ・効果の大きい事業だと考えられます。引き続き、事業の拡充を期待します。
- ・評価が良すぎることから質問事項の検討が必要

報告3. 経営状況の分析に関すること

(1) 経営分析セミナーの開催 (継続)

昨年度、指摘があった参加者数の増加対策として、今年度は商工会恒例の新春交流パーティーの開始前の時間を活用し経営分析セミナーを開催した。講師は現役の経営者であり経営コンサルタントを招きテーマを「地域中小企業の独り勝ち戦略」とし自身の経験を基に自社分析のやり方、その成果を講演頂いた。参加者募集には本会の青年部員の声掛けや新年会の案内状に同封等を行い、多くの参加者を得た。

① 実施日

令和7年1月17日

② 実績

項目/年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度
セミナーの予定回数	2 回	2 回	2 回	2 回	2 回
〃 実施回数	1 回	1 回			
参加者数	6 者	42 者			

③ 効果

昨年に引き続き今回も1回のみの実施として、終了後の交流会で参加者からいろいろなご意見を頂き、後日、アフターフォローとして追加の情報提供や施策の案内を6者ほど実施した。

④ 評価・意見

- ・実施回数は未達です。
- ・参加者数は昨年度を大きく上回っています。開催時期が関係していることも考えられます。今後についても、検討してみたいでしょうか。
- ・飲み会時等何かの機会と併せて開催したらどうか

(2) 窓口等による経営分析（継続）

セミナーに参加出来ない事業者に対して経営指導員が商工会事務所窓口や巡回支援を行い常時、経営分析を実施した。分析内容として全国商工会連合会の「経営状況セルフチェックシート」、中小機構の「経営自己診断システム」等を用いて実施した。特に融資利用者は定期的に窓口にお越しになるため、継続的な支援に繋がっている。

① 実績状況

項目/年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度
経営分析事業者予定数	35 者	35 者	40 者	40 者	40 者
〃 実施数	17 者	32 者			

## ② 効果

今回も主に融資あっせん時の経営分析を行ったため、財務について課題がある先が多くなった。特にコロナ無利子融資の返済猶予が終わった方の対応について、返済猶予の相談が多く、新たな販路拡大計画より経費削減や仕入れ先の見直し等、販売価格の改定や取引先への交渉術などの相談に流れた。資金繰り表の作成については全ての融資利用者で無く、創業して間もない経験の浅い経営者と空き店舗補助金と融資の両方利用者した経営者の方に実施（3者）。その内、1名は返済余力と収益のバランスに問題があった為、融資実行及び新規開業を見合わせた結果となった。

## ③ 評価・意見

・数値的には未達です。

## 報告4. 事業計画策定支援に関すること

### (1) 補助金活用セミナー・相談会の開催（新設）

先の経営分析セミナーと同時開催で1回実施した。今回は現役の経営者であり経営コンサルタントを講師に実施に役立った支援策等説明を頂いた。講演終了後は交流会も開催され講師へ直接、質問された方も多くいた。

#### ① 実施日

令和7年1月17日

#### ② 実績

項目/年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
セミナーの予定回数	1回	1回	1回	1回	1回
” 実施回数	1回	1回			
参加者数	6者	42者			

#### ③ 効果

講義終了後、受講者より補助金の詳細を聴きたいとの相談を受けた。なお、相談を受けた補助金の内訳は国の持続化補助金が3件、事業再構築補助金が1件、業務改善補助金が1件、町の空き店舗2件である。その他にも事業承継や店舗修理に使える補助金の相談も受けたが、現段階で利用出来るものは無く今後の施

策に期待することとなった。

④ 評価・意見

- ・実施回数は到達しています。

(2) デジタル活用と DX 化セミナー・相談会 (新設)

事業者が経営の DX 化に必要な知識を習得できるようセミナー形式で講習会を開催した。今回は長野県商工会連合会より上席専門経営支援員の中で EC サイトに詳しい方を講師に招き、新聞折込や全会員配布、HP などで開催を周知、参加者の募集を行った。なお、テーマは「Google マップ活用セミナー」とした。

① 実施日

令和 6 年 1 1 月 7 日

② 実績

↓開催チラシ



項目/年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度
セミナーの予定回数	1 回	1 回	1 回	1 回	1 回
〃 実施回数	1 回	1 回			
参加者数	4 者	15 者			

③ 効果

受講者の中には高齢な方もおり、店舗 PR に積極的で熱心に受講されていた。特に自社公式ホームページや EC サイトへの誘導方法など非常に良く調べられており有益な講習会となった。講義終了後の個別相談会は設けていなかったが、講師に個別質問をされている受講者が見られた。

④ 評価・意見

- ・実施回数は到達しています。

(3) 事業計画の策定支援

セミナー、相談会の他に事業計画策定の支援は常時受け付け、専門家やベンダーと連絡を取り合い連携して支援を実施した。

① 実施状況



項目/年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度
経営分析事業者予定数	10 者	10 者	10 者	10 者	10 者
(1)経営分析セミナーの事業計画策定者	2 者	0 者			
(2)DX セミナーによる事業計画策定者	2 者	0 者			
(3)窓口、専門家相談による事業計画策定者	2 者	6 者			

## ② 効果

各種セミナーに参加された方の事業計画作成は問い合わせや補助金説明のみで終わり、計画策定へつながらなかった。しかし、窓口へ相談は好調で県の補助金、町の補助金の申請のため多くの支援を行った。

## ③ 評価・意見

- ・ 今後は、計画作成支援に結び付くように工夫することもご検討してみてください。

## 報告 5. 事業計画策定後の実施支援に関すること

### (1) フォローアップ事業（継続）

事業計画を策定した事業者を対象に進捗状況の確認、計画実施の支援を行った。事業者の基本情報や事業計画の内容は各種情報管理システムを活用して速やかに確認できるような仕組みを構築した。

計画策定者へのアプローチは補助金の定期報告時を基本として行い、進捗状況の確認、計画が進まない場合の課題解決など伴走型支援を実施した。

## ① 実績

項目/年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度
フォローアップ 対象予定事業者数	10 者	20 者	30 者	30 者	30 者
〃 実施業者	6 者	12 者			
頻度（延べ予定回数）	40 回	80 回	120 回	120 回	120 回
〃 実施回数	31 回	41 回			
売上増加 予定事業者数	5 者	5 者	10 者	10 者	15 者
〃 達成事業者数	4 者	4 者			
営業利益率 3%以上 増加予定事業者数	3 者	3 者	5 者	5 者	7 者
〃 増加達成事業者数	4 者	3 者			

## ② 効果

今年度は昨年の創業者支援のフォローアップの他に、新たに空き店舗補助金を活用した新規出店者も多く支援を実施した。また県のエネコス補助金の事業計画策定支援並びに1年後のフォローアップも実施しており昨年より実績が上がった。継続支援の実例としては補助金受給後の1年後実績書の作成支援などが挙げられる。最も効果のあったフォローアップとして日本政策金融公庫作成の「業種別経営指標」を用いて支援者の財務分析を実施。改善項目の洗い出しを行ったことが挙げられる。また、物価高騰によるメニューの価格変更を検討している飲食店事業者に対し、価格転嫁の方法を長野県商工会連合会の上席専門支援員が作成した資料「飲食店における値上げ・価格改定における注意点」を参考に支援を行ったことが挙げられる。

## ③ 評価・意見

- ・数値的に未達が多い状況です。
- ・効果の大きいフォローアップ支援の内容を評価委員会で教えてください。

## 報告6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること

### (1) 町内及び町外の需要開拓(BtoC) (新設)

今年度のDX化セミナーのテーマにもなった「Googleマップ活用」について、当該セミナー受講者並びに創業又は空き店舗出店事業者に対してマップの利用促進の支援を実施した。

## ① 実績

項目/年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
i. 需要喚起支援予定事業者数	10者	10者	15者	15者	20者
〃 実施事業者数	4者	2者			
予定売上増加率/者	3%	3%	5%	5%	5%
売上増加率/者	5%	20%			

## ② 効果

空き店舗補助金の利用者については早い段階でGoogleマップの登録、活用している方が多く、ほとんど説明の必要が無い状態であった。創業者については次年度の開業予定の者が多く、開店後は早めの登録が必要と説明した。既存店の登録、情報量の拡充は年齢層が高くなかなか進まないのが現状であった。来期は創業者を中心に支援を実施して行きたい。

③ 評価・意見

- ・事業者数は未達の状況です。売上効果の高い事業です。さらなる拡充を期待します。

(2) 商談会参加による需要開拓 (BtoB) (新設)

新たな取引先を希望する事業者に対し「しんきん商談ステーション」を活用したオンライン商談会の案内を行った。また県主催「長野県産品商談会」の商談会へ参加し専門家派遣まで連続して支援を行った。

① 実施日

令和5年5月9日～(随時) しんきん商談ステーション

② 実績

項目/年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度
ii. オンライン商談会等参加予定事業者数	3 者	3 者	4 者	4 者	5 者
しんきん商談会参加	0 者	0 者			
県外商談会リアル参加	3 者	1 者			
成約予定件数/者	1 件	1 件	2 件	2 件	3 件
成約件数/者	1 件	1 件			

③ 効果

しんきん商談ステーションに小売、サービス業、製造業の数社参加を提案したが、オンラインによる商談は未だ敷居が高い様子で参加は見送られた。展示会のリアル参加については、出展後、取引に必要な食品の安全を確保するための衛生管理手法 (HACCP) の追加支援を行い、商談も成約があったとの報告を受けた。

④ 評価・意見

- ・他所のオンライン商談への参加状況はどうでしょうか。情報収集して、参考にしてみてはいかがでしょうか。

(3) 事業者の DX 化支援 (新設)

昨年度から始めた Google マップを活用した広報や EC サイトの効率化の他に、新たに始まった「中小企業省力化投資補助金」の相談者に対し補助金の内容説明や申請方法などの支援を行った。

① 実績

項目/年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度
iii. 事業者のデジタル化対応支援予定事業者数	10 者	10 者	15 者	15 者	20 者
〃 実施者数	15 者	1 者			
デジタル化による利益率 予定増加	3%	3%	5%	5%	5%
〃 実績増加率	-0.19%	報告待ち			

② 効果

中小企業省力化投資補助金はデジタルツールによる省力化も補助対象となっているため、製造業や流通業の他に建設業の方からも相談を受け対応した。特に人件費高騰や人材不足の傾向にある建設業から無人測量機の導入について具体的な相談が有り支援した。導入実績については決算や実績報告待ちである。

なお、google マップによる販促の効率化についてセミナー参加者は多いものの、実際に実施した者は今年度は無い。

③ 評価・意見

- ・数値的に昨年から大きく落ち込んでいます。原因として、どのようなことが考えられますか。

## 報告 7. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること

### (1) 事業評価委員会の開催（継続）

商工会役職員、行政の商工観光課職員、法定経営指導員、外部有識者として中小企業診断士等をメンバーとする「事業評価委員会」を開催した。事業の実施状況を報告し、事業成果の評価・見直し案等の検討を行った。

#### ① 実施日

令和 7 年 3 月 25 日

#### ② 実績（出席者）

7 名

（中小企業診断士 1 名・役場職員 1 名・商工会役員 2 名・職員 3 名（内、法定経営指導員 1 名）

### (2) 事業計画への反映（継続）

上記委員会で得た評価・見直しについては、次回本会理事会にて報告し、目標達成事業の効果や未達成事業の理由や原因について議論を行うとともに、事業への課題や今後の方向性を決定する。PDCAサイクルをしっかりと回し、本計画の実績と成果の向上に寄与することとした。

### (3) 事業の成果・評価・見直しの公表（継続）

本計画の評価委員会及び理事会の資料は地域の小規模事業者等が常に関覧出来るよう窓口に設置すると共に飯綱町商工会ホームページ（<http://www.iizunasci.jp/>）のTOP画面に掲載した。

#### ① 評価・意見

- ・評価委員会、ホームページへの掲載ともに、しっかり実施されています。

## 報告 8. 経営指導員等の資質向上等に関すること

### (1) 長野県商工会連合会主催研修会及び中小企業大学校研修の活用（継続）

職員の資質向上のため長野県商工会連合会主催の研修会及び中小企業大学校研修を受講した。

#### ① 実施日

令和6年6月21日 経営指導員研修会 主催：長野県商工会連合会

令和6年7月10日 補助員等研修会 主催： 〃

令和6年11月6日～8日 中小企業大学校研修 主催：中小機構

専門研修「オンラインを活用した伴走型支援の進め方」

#### ② 実績

項目/年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
長野県商工会連合会研修会 受講人数	4名	4名			
中小企業大学校研修 受講人数	1名	1名			

#### ③ 効果

長野県商工会連合会の研修では昨年に引き続き労務環境改善や経済支援策などを中心に講義がなされ学習することができた。また、中小機構の研修会ではリアルとオンラインを組み合わせた支援体制の構築方法や支援先が抱える多様かつ複雑な課題の解決に向けた「質」の高い支援とは何かを学習することが出来た。受講後は各自、資料を電子化して職場全体回覧を実施し、その一部を長野県商工会連合会経営支援センター長

野北西エリア（旧：北西グループ）へ電子掲示板を用いて回覧し各位から意見、所感等を頂いた。

#### ④ 評価・意見

・引き続き、積極的な受講を期待します。

##### （２）伴走型支援における OJT の活用（継続）

長野北西エリアの検討会議に参加し、支援案件の共有化を行った。途中でオンライン会議の導入が決まったため zoom によるオンライン会議を 1 回実施した。なお、日程の都合等で OJT となる案件が無く今年度は実施出来なかった。

#### ① 実績

項目/年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度
北西エリア検討会議実施数	3 回	5 回			
O J T 実施回数	1 回	0 回			

#### ② 効果

ほぼ毎月実施していた検討会議であったが、オンライン会議へシフトすると逆に実施回数が減り課題解決も自己で完結する傾向となった。しっかり時間と場所を設営することがオンラインより真剣に相談できる環境ではないかと感じた。

なお、経営発達支援計画事業とは別に補助員や一般事務職員による独自のオンライン会議を今年度から実施。議題は「商工会の日々の業務について改善や効率化について」で、そこでは意見交換が活発に行われており、成功の要素を解析し本事業にも取り入れて行きたい。

#### ③ 評価・意見

・計画に記載されているように上席専門経営指導員を含めた複数の経営指導員による共同支援の実施をご検討してはいかがでしょうか。

##### （３）DX 化支援に役立つ専門家又はベンダーとの研修会（新設）

先記で報告した事業者向けDXセミナー「テーマ:Google マップ活用セミナー」に職員も参加し学習した。また、本会以外に長野北西エリアの商工会職員にも開催案内を通知して広く参加を募った。

① 実施日

令和6年11月7日

② 実績

項目/年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
実施回数	1回	1回			
参加職員数	3名	3名			
内、他商工会職員数	0名	0名			

③ 効果

事業者と共に受講することにより支援時に共通認識を得ることが出来、受講者以外の支援の際も有益であった。受講後は資料を電子化して職場全体回覧を実施した。さらに長野北西エリアの各商工会へ電子掲示板を用いて回覧し各位から意見、所感等を頂いた。

④ 評価・意見

- ・効率的な取り組みと受け取りました。今後についても、同様の方法をご検討してみたいかがでしょうか。

(4) 職員間の支援ノウハウの共有体制づくり (継続)

本会の決裁、回覧は既に電子化が完了しており、多くの情報が書棚を利用せず閲覧可能となっている。また外部の商工会へは長野県商工会連合会が提供している共通システムを利用することにより、相談案件、資料の共有が可能となっている。課題としてデータの保存先の管理について共有フォルダでなく自己のPCフォルダに保存する者やサーバ上の個人フォルダに保存したまま放置してる者があり、事業毎のフォルダへの移行を徹底が必要である。

① 評価・意見

- ・引き続きの改善を期待します。

## 報告 9. 総括

経営発達支援計画の第二期が昨年度から始まり今年で2年目を経過しました。当初の計画がアフターコロナ支援、DX化支援に重点を置いて計画したが、現在は当時と比べ社会情勢が一変しており、企業の関心専らには原材料高騰、エネルギー対策、人手不足、賃金問題などに向けられている。積極的な販路開拓事業より事業の整理、経費削減、価格交渉等が急務と成りつつある。本計画も次第に既存店が利用する積極的な事業展開に用いる持続化補助金より、未経験者による新規開業の店舗補助金、創業補助金に需要が移りつつある。

今回の報告書に度々発生する、事前説明やセミナーの参加のみで計画策定に進まない支援者はこの不安定な経済環境で新たな投資を行うことに二の足を踏む様子が伺える。

この不安を払拭するためにもより丁寧で、綿密な計画策定支援が今以上に必要と考える。今後、支援機関の一員として技能を磨きながら専門家等も活用し、先述の需要にも対応した支援を実施して行きたい。

### ① 総評

- ・全体的に、計画に近い形で実施されていると受け取りました。
  - ・計画では、町内需要復活のための販路開拓支援を上位に挙げています。今後は、更なる拡充を期待してま
- す。

### 《各委員からの意見》

行政担当課長：昨年商工会と2回の懇談会を実施

商工会から提案された店舗リフォーム、事業承継補助金を来年度より実施活用ください。

本会商工会長：町行政の理解があるのでありがたい

計画の中に取り込まれることがあれば要望したい。